

**APPLICATION**  
**FOR**  
**UNITED STATES LETTERS PATENT**

**TITLE:               SHIFT REGISTER AND DRIVING METHOD THEREOF**

**APPLICANT:       MITSUAKI OSAME AND AYA ANZAI**

## 明細書

## シフトレジスタ及びその駆動方法

## 技術分野

- 5 本発明は、映像信号を入力して映像表示を行うアクティブマトリクス型表示装置に関する。さらに、映像信号を順次サンプリングしていくサンプリングパルスを生成するシフトレジスタに関する。

## 背景技術

- 10 近年、液晶表示装置や発光装置などのアクティブマトリクス型表示装置は、携帯機器向け等の需要の増加から開発が進められている。特に絶縁体上に多結晶半導体（ポリシリコン）により形成されたトランジスタを用い、画素及び駆動回路（以下、内部回路と称する。）を一体形成する技術は活発に開発が進められている。内部回路はソース信号線駆動回路、ゲート信号線駆動回路等を有し、マトリクス状に配置された画素を制御する。
- 15 また、内部回路はフレキシブルプリント基板（FPC）等を介してコントローラIC等（以下、外部回路と称する。）と接続され、その動作が制御される。一般的に、外部回路に用いるICは単結晶のため、内部回路の電源電圧より低い電圧で動作する。現状では、通常、外部回路は3.3Vの電源電圧で動作するが、内部回路は10V程度の電源電圧で動作する。
- 20 よって、外部回路のクロック（以後、CKと表記）信号で内部回路のシフトレジスタを動作させるためには、レベルシフタ等でCK信号を内部回路の電源電圧と同程度の電圧に増幅する必要がある。

外部回路でCK信号を増幅する場合にはレベルシフタIC、電源IC等の部品の増加、消費電力の増加等の問題が生じる。内部回路においては、FPCの入力部にCK信号を増

幅するレベルシフタを設け、シフトレジスタ全段に供給すると、レイアウト面積の増加、消費電力の増加、高周波動作が困難等の問題を生じる。

そのため、低電圧のCK信号で動作するシフトレジスタが提案されている。この発明のシフトレジスタは差動増幅型のデータ転送部を備えることにより、低電源電圧、低電圧入力  
5 信号であっても十分に動作することができるとしている(例えば、特開平11-184432号公報参照)。

前記差動増幅型のデータ転送部を備えるシフトレジスタは、差動増幅器を構成するトランジスタ特性が想定していた特性から外れた時には、シフトレジスタが誤動作する場合がある。単結晶ではないポリシリコン TFT 等においては、特性ばらつきは無視できない問  
10 題である。

本発明は上記の問題点を鑑みてなされたものであり、トランジスタの特性ばらつきの影響を受けにくい、低消費電力のシフトレジスタを提供することを課題とするものである。

#### 発明の開示

15 本発明は、閾値電位を取得したインバータの入力部に容量手段を介してCK信号を入力することで、CK信号は増幅され、その増幅したCK信号をシフトレジスタに用いる。つまり、インバータの閾値電位を取得することで、トランジスタの特性ばらつきに殆ど影響しないシフトレジスタを提供することができる。

また、CK信号を増幅するレベルシフタは、シフトレジスタの出力パルスを用いて生成  
20 した制御信号により動作するため、CK信号の増幅が必要な短期間だけ動作する。これにより、CK信号のレベルシフタは貫通電流が流れる期間が短く、低消費電力のシフトレジスタを提供することができる。

本発明の構成を以下に記す。

本発明のシフトレジスタは、クロック信号の振幅を増幅するレベルシフタを有するシフトレジスタであって、

- 5 前記レベルシフタは、容量手段と、  
前記容量手段の第1の電極に入力部が接続されたインバータと、  
前記インバータの入力部と出力部を電氣的に接続する手段と、  
前記容量手段の第2の電極に基準電位を入力する第1の手段と、  
前記容量手段の第2の電極に前記クロック信号を入力する第2の手段と、
- 10 前記レベルシフタの出力の電位を固定する第3の手段と、  
前記レベルシフタが動作していない期間において、前記インバータの入力部の電位を固定する第4の手段と、を有し、  
前記レベルシフタの制御信号は前記シフトレジスタの出力パルスから生成することを特徴とする。
- 15 また、前記基準電位として前記クロック信号のHレベルとLレベルの電位を用いることを特徴とする。

本発明のシフトレジスタは、クロック信号の振幅を増幅するレベルシフタを有するシフトレジスタであって、

- 前記レベルシフタは、容量手段と、
- 20 前記容量手段の第1の電極に入力部が接続された第1のインバータと、  
前記第1のインバータの出力部に入力部が接続された第2のインバータと、  
前記第1のインバータの入力部と出力部の間に設けられた第1のスイッチと、  
前記第1のインバータの入力部と電源との間に設けられた第2のスイッチと、

前記容量手段の第2の電極に基準電位を入力する第1の手段と、

前記容量手段の第2の電極に前記クロック信号を入力する第2の手段と、を有し、

前記第2のインバータは、前記第1のインバータの出力が不定の期間において、前記レベルシフタの出力の電位を固定する第3のスイッチを有し、

- 5 前記レベルシフタの制御信号は前記シフトレジスタの出力パルスから生成することを特徴とする。

本発明のシフトレジスタは、クロック信号の振幅を増幅するレベルシフタを有するシフトレジスタであって、

前記レベルシフタは、直列に接続された第1のインバータ及び第2のインバータと、

- 10 前記第1のインバータの入力部と出力部の間に設けられた第1のスイッチと、

前記第1のインバータの入力部と電源との間に設けられた第2のスイッチと、

前記第1のインバータの入力部に第1の電極が接続された第1の容量手段及び第2の容量手段と、

- 15 前記第1の容量手段の第2の電極に基準電位として前記クロック信号のHレベルを入力する第3のスイッチと、

前記第2の容量手段の第2の電極に基準電位として前記クロック信号のLレベルを入力する第4のスイッチと、

前記第1の容量手段及び第2の容量手段の第2の電極に前記クロック信号を入力する手段と、を有し、

- 20 前記第2のインバータは、前記第1のインバータの出力が不定の期間において、前記レベルシフタの出力の電位を固定する第5のスイッチを有し、

前記レベルシフタの制御信号は前記シフトレジスタの出力パルスから生成することを特徴とする。

本発明のシフトレジスタは、クロック信号の振幅を増幅するレベルシフタを有するシフトレジスタであって、

前記レベルシフタは、直列に接続された第1のインバータ及び第2のインバータと、

前記第1のインバータの入力部と出力部の間に設けられた第1のスイッチと、

- 5 前記第1のインバータの入力部と電源との間に設けられた第2のスイッチと、

前記第1のインバータの入力部に第1の電極が接続された第1の容量手段及び第2の容量手段と、

前記第1の容量手段の第2の電極に出力部が接続された第3のインバータと、

前記第3のインバータの入力部と出力部の間に設けられた第3のスイッチと、

- 10 前記第3のインバータの入力部と電源との間に設けられた第4のスイッチと、

前記第3のインバータの入力部に第1の電極が接続された第3の容量手段と、

前記第3の容量手段の第2の電極に前記クロック信号のHレベルの電位を入力する第5のスイッチと、

前記第2の容量手段の第2の電極に出力部が接続された第4のインバータと、

- 15 前記第4のインバータの入力部と出力部の間に設けられた第6のスイッチと、

前記第4のインバータの入力部と電源との間に設けられた第7のスイッチと、

前記第4のインバータの入力部に第1の電極が接続された第4の容量手段と、

前記第4の容量手段の第2の電極に前記クロック信号のLレベルの電位を入力する第8のスイッチと、

- 20 前記第3の容量手段及び第4の容量手段の第2の電極に前記クロック信号を入力する手段と、を有し、

前記第2のインバータは、前記第1のインバータの出力が不定の期間において、前記レベルシフタの出力の電位を固定する第9のスイッチを有し、

前記レベルシフタの制御信号は前記シフトレジスタの出力パルスから生成することを特徴とする。

また、本発明のシフトレジスタは、

シフトレジスタを構成するレベルシフタの段数とフリップフロップの段数の比が、 $1:N$  ( $N$

5 は2以上)であることを特徴とする。

本発明のシフトレジスタの駆動方法は、クロック信号の振幅を増幅するレベルシフタを有し、

前記レベルシフタは、容量手段と、

前記容量手段の第1の電極に入力部が接続されたインバータと、

10 前記インバータの入力部と出力部の間に設けられたスイッチと、

前記容量手段の第2の電極に基準電位を入力する第1の手段と、

前記容量手段の第2の電極にクロックを入力する第2の手段と、

前記レベルシフタの出力の電位を固定する第3の手段と、

前記インバータの入力部の電位を固定する第4の手段と、を有するシフトレジスタの駆動

15 方法であって、

リセット期間において、前記スイッチをオンして、前記インバータの入力部及び出力部を前記インバータの閾値電位とすることによって、前記容量手段の第1の電極が前記閾値電位とし、前記第1の手段によって前記容量手段の第2の電極を基準電位とし、

クロック取り込み期間において、前記第2の手段によって前記容量手段の第2の電極に

20 前記クロック信号を入力し、前記基準電位からの電位の変動により、前記第3の手段によってHレベルまたはLレベルを入力された前記クロック信号に対応して出力し、

前記インバータの出力が不定の期間において、前記第3の手段によって、前記レベルシフタの出力の電位を固定し、

前記レベルシフタが動作していない期間において、前記第4の手段によって、前記インバータの入力部の電位を固定し、  
前記レベルシフタの制御信号は前記シフトレジスタの出力パルスから生成することを特徴とする。

- 5    また本発明のシフトレジスタの駆動方法は、前記基準電位に前記クロック信号のHレベルとLレベルの電位を用いることを特徴とする。

#### 図面の簡単な説明

第1図は、実施の形態1を示す図である。

- 10    第2図は、実施の形態2を示す図である。

第3図は、実施の形態3を示す図である。

第4図は、実施の形態3におけるタイミングチャートを示す図である。

第5図は、制御信号のタイミングを示す図である。

第6図は、本発明が適用可能なシフトレジスタの構成を示す図である。

- 15    第7図は、D-FFの構成例を示す図である。

第8図は、本発明における制御信号の生成方法の例を示す図である。

第9図は、本発明が適用可能な電子機器の例を示す図である。

第10図は、インバータの特性を示す図である。

第11図は、出力インバータの他の構成例を示す図である。

20

発明を実施するための最良の形態

本発明の実施形態について、以下に説明する。



## [実施の形態1]

図1(A)に本発明のシフトレジスタのCK信号を増幅するレベルシフタの第1の構成を示す。

本実施形態のレベルシフタはCK取り込み用スイッチ1001、リファレンス用スイッチ1002、閾値セット用スイッチ1003、容量手段1004、補正インバータ1005、電位固定用スイッチ1006、出力インバータ1007を有し、出力インバータ1007は第1のP型TFT1008、第2のP型TFT1009及びN型TFT1010を有する。

CK取り込み用スイッチ1001はシフトレジスタの出力パルスから生成した信号②によりオンオフを制御され、CK信号が取り込まれる。リファレンス用スイッチ1002はシフトレジスタの出力パルスから生成した信号①によりオンオフを制御され、CK取り込み用スイッチ1001と容量手段1004との接続部に、基準電位 (Reference Voltage) を取り込む。補正インバータ1005の入力部、出力部は閾値セット用スイッチ1003を介し、電氣的に接続されており、前記閾値セット用スイッチ1003のオンオフは信号①により制御されている。ここで、CK取り込み用スイッチ1001、リファレンス用スイッチ1002、閾値セット用スイッチ1003、電位固定用スイッチ1006は制御信号がHレベルのときオンするとする。

前記レベルシフタが動作していない期間、補正インバータ1005の誤動作や貫通電流を防止するため、補正インバータ1005の入力部は電位固定用スイッチ1006を介してGND電源と接続される。前記電位固定用スイッチ1006はシフトレジスタの出力パルスから生成した信号③によりオンオフが制御される。出力インバータ1007において、CK信号取り込みが開始されるまで、誤動作しないように、第1のP型TFT1008は、シフトレジスタの出力パルスから生成した信号④でオンオフが制御される。

ここで、OUT はレベルシフタが動作していない期間はGND電位になり、CK信号のHレベルを取り込んだ時にはVDD電位になる設定となっている。このため、レベルシフタが動

作していない期間は、補正インバータ1005の入力部はGND電位に固定してある。また、出力インバータ1007が第1のP型TFT1008のスイッチを設けているのは、第1のP型TFT1008でVDDの出力期間を制御することによって、補正インバータ1005の出力が不定の時に誤動作しないようにするためである。

- 5     また、レベルシフタが動作していない期間において、補正インバータ1005の入力部をHレベルに固定した方が論理的に都合の良いときには、電位固定用スイッチ1006をP型TFTにし、補正インバータ1005の入力部をVDDに電氣的に接続する。また、出力インバータ1007を例えば図11の1107に示すような構成とすることによって、出力インバータ1007のVDDの出力期間を制御している第1のP型TFT1008のかわりに、N型TFT11
- 10   10でGNDの出力期間を制御することによって、リセット期間T1において、補正インバータ1005の出力が不定の時に誤動作しないようにすることもできる。なお、図11において、図1と同じものには同じ記号を用いている。

- 図1(B)に本実施形態のレベルシフタのタイミングチャートを示す。図1(A)、(B)を用い、前記レベルシフタで低電圧のCK信号を増幅する動作について説明する。例として
- 15   電位を明記して説明する。GNDは0V、VDDは7V、信号①、②、③及び④のHレベルは7V、Lレベルは0V、CK信号のHレベルは3V、Lレベルは0V、基準電位(Reference Voltage)はCK信号の中間電位、1.5Vとする。

- まず期間T1はリセット期間である。信号①がHレベル(7V)となり、リファレンス用スイッチ1002、閾値セット用スイッチ1003がオンする。ノードaは基準電位(1.5V)となる。ノードbはノードcの電位がフィードバックされ電位が動かない方向に働くので、補正インバータ1005の閾値電位(ここでは3.5Vとする)となる。ここで、容量手段1004の両端の電位差が保存される。
- 20

続いて、CK取り込み期間T2に移り、信号②がHレベル(7V)となり、CK取り込み用ス

イッチ1001がオンする。T2期間の最初、CK 信号は L レベル (0V) のため、ノード a の電位が 1.5V から 0V となる。容量手段 1004 の両端の電位差は保持されるので、ノード b はノード a の電圧変化分程度変化する。よって、ノード b は 3.5V から 1.5V 程度下降する。

図 10 に一般的なインバータの  $V_{IN}-V_{OUT}$  特性を示す。図 10 に示されているように、

- 5  $V_{IN}$  が閾値から上下どちらかに少しでも変動すると、 $V_{OUT}$  は大きく  $V_{DD}$  又は  $GND$  に近づく。

よって、T1 期間においてノード b は補正インバータ 1005 の閾値電位にセットされていたため、ノード b の変化にノード c は敏感に反応する。この場合、ノード b の電位は下降しているため、ノード c は  $V_{DD}$  に大きく近づく。そして、OUT の出力は  $GND$  (0V) のままであ  
10 る。

次に、T2 期間に、CK 信号が L レベル (0V) から H レベル (3V) に変化する。これにより、ノード a は、0V から 3V になり、ノード b は 3.5 (閾値電位) + 1.5V 程度の電位に上昇する。よって、ノード c は  $GND$  に近づく。この時、信号④は L レベル (0V) のため、OUT は  $V_{DD}$  (7V) になる。

- 15 また、T2 期間の最後に、CK 信号は H レベル (3V) から L レベル (0V) に変化する。これにより、ノード a は、3V から 0V になり、ノード b は 3.5 (閾値電位) - 1.5V 程度の電位に下降する。よって、ノード c は  $V_{DD}$  に近づき、OUT は  $GND$  (0V) になる。こうして、図 1 (B) OUT のように、CK 信号の半周期だけ H レベル (7V) となるパルスが生成される。

CK 信号の増幅を終了した後、信号③が H レベル (7V) となり、電位固定用スイッチ 10  
20 06 がオンし、補正インバータ 1005 の入力部は  $GND$  (0V) に固定される。

また、基準電位は CK 信号振幅の中間電位が望ましいが、厳密に中間電位である必要はなく、前記 CK 信号の最高電位、最低電位と異なり、かつ、前記 CK 信号の振幅を出ない範囲で多少変動させることが可能である。この中間電位は、外部回路で生成してもよ

いし、内部回路で生成してもよい。

本実施形態の通り、電源電圧に対してCK信号の振幅が小さくても、トランジスタの特性ばらつきの影響を殆ど受けることなく、CK信号を増幅することができる。また、レベルシフタが動作しない期間は、電位を固定し、誤動作防止や貫通電流が流れないようにしている。よって、低消費電力化が可能となる。このように、本発明は、トランジスタの特性ばらつきが大きい、ポリシリコンTFT等を用いたシフトレジスタに適している。

#### [実施の形態2]

図2(A)に本発明のシフトレジスタのCK信号を増幅するレベルシフタの第2の構成を示す。

実施形態1では、基準電位として、CK信号の中間電位を用いる例を示したが、実施形態2では、中間電位を用いなくて、CK信号のHレベルとLレベルを基準電位として用いて、CK信号を増幅する例を示す。

本実施形態のレベルシフタは第1のCK取り込み用スイッチ2001及び第2のCK取り込み用スイッチ2004、第1のリファレンス用スイッチ2002及び第2のリファレンス用スイッチ2005、Hセット用容量手段2003及びLセット用容量手段2006、閾値セット用スイッチ2007、補正インバータ2008、電位固定用スイッチ2009、出力インバータ2010を有し、出力インバータ2010は、第1のP型TFT2011、第2のP型TFT2012及びN型TFT2013を有する。

本実施形態のレベルシフタは、補正インバータ2008の入力部に接続される容量手段をHセット用容量手段2003とLセット用容量手段2006の2つに分割する。補正インバータ2008と繋がるHセット用容量手段2003の反対側の端子には第1のリファレンス用スイッチ2002と第1のCK取り込み用スイッチ2001が接続され、Lセット用容量手段2006の

反対側の端子には第2のリファレンス用スイッチ2005と第2のCK取り込み用スイッチ2004が接続される。ここで、Hセット用容量手段2003とLセット用容量手段2006の電気容量は等しいものとする。

- また、閾値セット用スイッチ2007、電位固定用スイッチ2009、出力インバータ2010
- 5 は、実施形態1と同様に、補正インバータ2008の入力部と出力部の間に閾値セット用スイッチ2007が設けられている。そして、補正インバータ2008の出力には、出力インバータ2010が接続され、出力インバータ2010には、VDDの出力期間を制御する第1のP型TFT2011が設けられている。第1のP型TFT2011でVDDの出力期間を制御することによって、補正インバータ2008の出力が不定の時に誤動作しないようにすることができる。
- 10 また、レベルシフタが動作しない期間、電位を固定するため、補正インバータの入力部は、電位固定用スイッチ2009を介してGNDと接続している。

- また、レベルシフタが動作していない期間において、補正インバータ2008の入力部をHレベルに固定した方が論理的に都合の良いときには、電位固定用スイッチ2009をP型TFTにし、補正インバータ2008の入力部をVDDに電氣的に接続する。また、実施の形
- 15 態1と同様に、出力インバータ2010を例えば図11の1107に示すような構成とすることによって、出力インバータ2010のVDDの出力期間を制御している第1のP型TFT2011のかわりに、N型TFT1110でGNDの出力期間を制御することによって、リセット期間T1において、補正インバータ2008の出力が不定の時に誤動作しないようにすることもできる。
- なお、図11において、図1と同じものには同じ記号を用いている。

- 20 図2(B)に本実施形態のレベルシフタのタイミングチャートを示す。図2(A)、(B)を用い、本実施形態のレベルシフタで低電圧のCK信号を増幅する動作について説明する。例として電位を明記して説明する。GNDは0V、VDDは7V、信号①、②、③及び④のHレベルは7V、Lレベルは0V、CK信号のHレベルは3V、Lレベルは0V、基準電位

はHレベルが3V、Lレベルは0Vとする。

制御信号①、②、③、④のタイミングは実施形態1と同じである。まず、リセット期間T1において、第1のリファレンス用スイッチ2002及び第2のリファレンス用スイッチ2005がオンとなりノードeは3V、ノードfは0Vの電位となる。補正インバータ2008の入力部は閾値  
5 セット用スイッチ2007がオンとなり、補正インバータ2008の閾値電位となる。ここで、Hセット用容量手段2003及びLセット用容量手段2006のそれぞれの容量手段の両端の電位差が保存される。

続いてCK取り込み期間T2に移り、第1のCK取り込み用スイッチ2001及び第2のCK取り込み用スイッチ2004がオンする。最初、CK信号はLレベル(0V)のため、ノード  
10 eの電位は3Vから0Vとなり、ノードfの電位は0Vのままである。このノードeの変化により、ノードgの電位は補正インバータ2008の閾値電位から1.5V程度下降することになる。続いて、CK信号がHレベル(3V)になると、ノードeの電位は、0Vから3Vとなり、ノードfの電位は、0Vから3Vとなる。このノードfの変化により、ノードgの電位は補正インバータ2008の閾値電位から1.5V程度上昇した電位になる。T2期間の最後に、CK信号はLレベル  
15 ル(0V)になり、ノードgの電位は補正インバータ2008の閾値電位から1.5V程度下降した電位となる。こうして、図2(B)OUTのように、CK信号の半周期だけHレベル(7V)となるパルスが生成される。

上記のように、基準電位として、CK信号の中間電位を用いず、CK信号のHレベル、Lレベルを用いて、CK信号の増幅が可能である。よって、CK信号の中間電位の電源を追加  
20 しなくても、CK信号のHレベル電源、Lレベル電源を用いることで、電源数の削減が可能である。

### [実施の形態3]

図3に本発明のシフトレジスタのCK信号を増幅するレベルシフタの第3の構成を示す。

実施の形態1や実施の形態2では、CK信号を取り込んだ時の補正インバータの入力部の閾値電位からの電位の変化はCK信号振幅の半分程度だったが、実施形態3では、CK信号振幅と同程度にすることができる例を示す。

本実施の形態のレベルシフタは第1及び第2のCK取り込み用スイッチ3001、3008、第1及び第2のリファレンス用スイッチ3002、3009、第1、第2、第3、第4及び第5の容量手段3003、3007、3010、3014、3015、第1及び第2の補正インバータ3005、3012、第1及び第2の閾値セット用スイッチ3004、3011、第1及び第2の電位固定用スイッチ3006、3013、第3の補正インバータ3017、第3の閾値セット用スイッチ3016、第3の電位固定用スイッチ3018、出力インバータ3019を有する。

本実施の形態のレベルシフタは、第3の補正インバータ3017の入力部に接続される容量手段を第2の容量手段3007と第4の容量手段3014の2つに分割する。第3の補正インバータ3017と繋がる第2の容量手段3007の反対側の端子には第1の補正インバータ3005の出力部が接続され、第1の補正インバータ3005の入力部は第1の容量手段3003と接続される。第1の補正インバータ3005の入力部と出力部は第1の閾値セット用スイッチ3004を介して電氣的に接続され、第1の補正インバータ3005の入力部は、第1の電位固定用スイッチ3006を介してVDDと接続される。第1の補正インバータ3005と接続される第1の容量手段3003の反対側の端子には第1のCK取り込み用スイッチ3001と第1のリファレンス用スイッチ3002が接続される。第1のCK取り込み用スイッチ3001からCK信号を、第1のリファレンス用スイッチ3002から基準電位を取り込む。

第3の補正インバータ3017と繋がる第4の容量手段3014の反対側の端子には第2の

- 補正インバータ3012の出力部が接続され、第2の補正インバータ3012の入力部は第3の容量手段3010と接続される。第2の補正インバータ3012の入力部と出力部は第2の閾値セット用スイッチ3011を介して電氣的に接続され、第2の補正インバータ3012の入力部は、第2の電位固定用スイッチ3013を介してVDDと接続される。また、第1の補正インバータ3005の入力部と第2の補正インバータ3012の入力部は第5の容量手段3015で接続される。第2の補正インバータ3012と接続される第2の容量手段3010の反対側の端子には第2のCK取り込み用スイッチ3008と第2のリファレンス用スイッチ3009が接続される。第2のCK信号取り込み用スイッチ3008からCK信号を、第2のリファレンス用スイッチ3009から基準電位を取り込む。
- 10     また、第3の補正インバータ3017の入力部と出力部は第3の閾値セット用スイッチ3016を介して接続され、第3の補正インバータ3017の入力部は、第3の電位固定用スイッチ3018を介してGNDに接続される。第3の補正インバータ3017の出力は出力インバータ3019に接続され、出力インバータ3019にはVDDを出力する期間を制御する第1のP型TFT3020を設けている。ここで、第1、第2、第3及び第4の容量手段の電気容量は
- 15     等しく、第5の容量手段の電気容量は第1、第2、第3及び第4の容量手段の電気容量より十分小さいものとする。

- また、レベルシフタが動作していない期間において、第3の補正インバータ3017の入力部をHレベルに固定した方が論理的に都合の良いときには、電位固定用スイッチ3018をP型TFTにし、第3の補正インバータ3017の入力部をVDDに電氣的に接続する。
- 20     た、実施の形態1と同様に、出力インバータ3019を例えば図11の1107に示すような構成とすることによって、出力インバータ3019のVDDの出力期間を制御している第1のP型TFT3020のかわりに、N型TFT1110でGNDの出力期間を制御することによって、リ



セット期間T1において、第3の補正インバータ3017の出力が不定の時に誤動作しないようにすることもできる。なお、図11において、図1と同じものには同じ記号を用いている。

図4に本実施形態のレベルシフタのタイミングチャートを示す。図3、図4を用い、本実施形態のレベルシフタで低電圧のCK信号を増幅する動作について説明する。例として電位を明記して説明する。GNDは0V、VDDは7V、信号①、②、③及び④のHレベルは7V、Lレベルは0V、CK信号のHレベルは3V、Lレベルは0V、基準電位はHレベルが3V、Lレベルが0Vとする。

制御信号①、②、③及び④のタイミングは実施形態1、2と同じである。まず、リセット期間T1において、第1及び第2のリファレンス用スイッチ3002及び3009がオンとなりノードiは3V、ノードjは0Vの電位となる。同時に、第1、第2及び第3の閾値セット用スイッチ3004、3011及び3016がオンとなり、第1、第2及び第3の補正インバータ3005、3012及び3017の入出力部は、第1、第2、及び第3の補正インバータ3005、3012及び3017の閾値電位(3.5Vとする)となる。ここで、第1、第2、第3、第4及び第5の容量手段の両端の電位差が保存される。

続いてCK取り込み期間T2に移り、第1及び第2のCK取り込み用スイッチ3001及び3008がオンする。まずは、CK信号はHレベル(3V)のため、ノードiの電位は3Vのままで、ノードjの電位は0Vから3Vになる。このノードjの変化により、ノードlの電位は3.5Vから3V程度上昇することになり、ノードnは3.5Vから0Vになる。また、ノードkの電位は、第5の容量手段3015により、僅かに持ち上げられる。これにより、ノードmの電位も3.5VからGND方向に降下する。よって、ノードoの電位は3.5VからGND(0V)になり、ノードpはVDD(7V)となり、OUTはGND(0V)となる。続いて、CK信号はLレベル(0V)、Hレベル(3V)と変化するが、それに応じて、各ノードは、図4のように適正に変化することができる。

この構成を用いることで、CK信号振幅に対する補正インバータの閾値電位からの電位の変化を、CK信号振幅と同程度にすることができ、より安定した動作が期待できる。また、基準電位として、CK信号の中間電位を用いず、CK信号のHレベル、Lレベルを用いることにより、電源数の削減も可能である。

- 5 実施形態1、2及び3では、リセット期間にだけリファレンス用スイッチから基準電位が入力するよう説明したが、必ずしもこの期間だけにリファレンス用スイッチをオンにする必要はない。つまり、リセット期間が終わる時点で、容量の一方の電極が基準電位になっていればよく、レベルシフタが動作していない期間に、リファレンス用スイッチがオンし、CK取り込み期間が開始される前にリファレンス用スイッチがオフしても良い。
- 10 また、レベルシフタが動作していない期間、出力インバータの出力は、Lレベルであった。これは、シフトレジスタのD-フリップフロップ(D-FF)が動作する時に、HレベルのCK信号を必要とする設定であるためである。つまり、シフトレジスタのD-FFをLレベルのCK信号で動作させるようにシフトレジスタを設定した時には、レベルシフタが動作しない時の出力インバータの出力はHレベルとなる。この時の補正インバータの入力部は、
- 15 電位固定用スイッチを介してVDDに接続し、出力インバータはN型TFTにスイッチを設け、必要な時のみGND電位が出力されるようにすれば良い。

また、補正インバータの出力が不定の時の誤動作防止の手段として、前記実施形態では出力インバータのP型TFT或はN型TFTにスイッチを設ける例を示したが、必ずしもこの方法である必要はなく、例えば、アナログスイッチを補正インバータ以降に設け、補正

- 20 インバータの出力が不定の時に、誤ったレベルを出力しないようにしても良い。

また、CK取り込み用スイッチ、リファレンス用スイッチ、閾値セット用スイッチ、電位固定用スイッチは、CK信号電位、電源電位に応じて、N型TFTにしてもよいし、P型TFTにしても良いし、N型TFTとP型TFTの両方用いたアナログスイッチにしても良い。各

制御信号も各スイッチの極性に合わせて反転信号を生成する等、適宜生成すればよい。

- また、レベルシフタが動作していない期間の補正インバータの入力部の電位固定について、前記実施形態では電位固定用スイッチを介して電源に接続すれば良いとしたが、補正インバータの入力部が電源電位になればよく、補正インバータの出力部と入力部を
- 5 クロックドインバータを介してループ状に接続してもよい。また、補正インバータの入力部が、貫通電流が流れない電位になる様、補正インバータと繋がる容量手段の反対側の端子を所望の電位に固定しても良い。

#### [実施の形態4]

- 10 次に、シフトレジスタの出力パルスから、レベルシフタの制御信号①、②、③及び④を生成するタイミングについて、図5を用いて説明する。

図5にシフトレジスタを構成する第N段のD-フリップフロップ(D-FF)に付随する第N段のレベルシフタの制御信号を生成するのに必要な信号のタイミングチャートを示す。第N-2段のD-FFの出力Q5001、第N-2段のD-FFの反転出力Qb5002、第N-1段

15 のD-FFの出力Q5003、第N-1段のD-FFの反転出力Qb5004を示す。

リセット期間 T1は信号①がHレベルとなる期間で、第N-2段のD-FFの出力Q5001と第N-1段のD-FFの反転出力Qb5004のNANDをとり、NAND出力を反転することで生成できる。CK信号の取り込み期間 T2は信号②がHレベルとなる期間で、第N-1段のD-FFの出力Q5003を用いればよい。電位固定期間 T3は信号③がHレベルとな

20 る期間で、第N-2段のD-FFの出力Q5001と第N-1段のD-FFの出力Q5003のNORをとることで生成できる。また、出力インバータのVDD出力を制御する信号④は、信号②の反転信号を用いればよい。

ただし、上記の説明は信号遅延が全くないとした場合の例である。実際には、信号遅

延に注意して、制御信号を生成する必要がある。特に、貫通電流を防止するため、電位固定スイッチをオフにしてからリセット期間を開始すること、入力した基準電位が変化してしまうのを防止するため、リセット期間が終了してからCK信号取り込み期間を開始すること、出力インバータのVDD出力制御の信号④は、CK信号取り込みを開始した後、ノイズの影響がなくなってからオン(Lレベル)にするようにすることを注意する必要がある。

また、実施形態4では、CK信号のレベルシフタの各制御信号を生成するのに、N-2段のD-FFとN-1段のD-FFの出力を用いて生成する例を説明したが、必ずしもこれに限る必要はない。リセット期間にN-3段のD-FFの出力を用い、CK信号取り込み期間にN-1段のD-FFの出力を用いて生成しても良い。要するにシフトレジスタの出力パルスから目的に応じて、適宜生成すれば良い。

このようにして、シフトレジスタの出力パルスからレベルシフタの制御信号を生成することができる。

#### (実施例)

以下に、本発明の実施例について記載する。

実施形態1、2及び3のレベルシフタを用いてシフトレジスタを構成する時の各段のD-FFとレベルシフタの接続関係を説明する。

#### [実施例1]

図6に本発明のレベルシフタを用いたシフトレジスタの構成例を示す。

前記シフトレジスタは複数段のレベルシフタ(LS)6001とD-FF6002により構成されている。第N段のレベルシフタの入力N1は第N-2段のD-FFの出力Qに接続され、第N段のレベルシフタの入力N2は第N-1段のD-FFの出力Qに接続され、第N段のレ

ベルシフタの出力OUTは、第N-1段のD-FFのCK2と第N段のD-FFのCK1に接続される。第N段のD-FFの入力INには第N-1段のD-FFの出力Qが接続され、第N段のD-FFの出力Qは第N+1段のD-FFの入力INに接続される。また、第N段のD-FFのCK2には第N+1段のレベルシフタの出力OUTが接続される。

- 5     本実施例では、シフトレジスタを構成するレベルシフタの段数とフリップフロップの段数の比が1:1に対応する例を示したが、シフトレジスタを構成するレベルシフタの段数とフリップフロップの段数の比は1:N(Nは2以上)であっても良い。回路のレイアウト面積、動作周波数、消費電力等を考慮して適宜選択すれば良い。

## 10 [実施例2]

続いて図7(A)に前記D-FF6002の構成例について、図7(B)にタイミングチャートを示す。

- 前記D-FF6002は直列に接続された第1のクロックドインバータ7001及びインバータ7002と、前記インバータとループ状に接続された第2のクロックドインバータ7003とを  
 15   有する。第1のクロックドインバータ7001は直列に接続された第1のP型TFT7004、第2のP型TFT7005、第1のN型TFT7006、第2のN型TFT7007から成り、第2のクロックドインバータ7003は直列に接続された第3のP型TFT7008、第4のP型TFT7009、第3のN型TFT7010、第4のN型TFT7011から成る。

- 第2のN型TFT7007及び第3のP型TFT7008はCK1によりオンオフが制御され、第1  
 20   のP型TFT7004及び第4のN型TFT7011はCK2によりオンオフが制御されている。第2のP型TFT7005と第1のN型TFT7006のゲートには、前段のD-FFの出力(IN)が入力される。

図7(B)のタイミングチャートを用い、本実施例の動作について説明する。

まず、期間T1において、INにパルスが入力され、Hレベルになり、第2のP型TFT7005がオフ、第1のN型TFT7006がオンする。続いて期間T2において、CK1がHレベルになり、第2のN型TFT7007がオンし、ノードQbがGND電位となり、ノードQがVDD電位となる。続いて期間 T3において、CK2がHレベルになり、第4のN型TFT7011がオンし、ノードQbはGND電位のまま保持される。更に期間 T4において、CK2がLレベルになり、第1のP型TFT7004がオン、第4のN型TFT7011がオフし、ノードQbはVDD電位、ノードQはGND電位となる。

本実施例では、図7(A)のD-FFを用いたが、必ずしもこの構成のフリップフロップに限定されないのは言うまでもない。

10

### [実施例3]

実施の形態4で、シフトレジスタの出力パルスからレベルシフタの制御信号を生成するタイミングを説明したが、実際に使用する時には、各制御信号の遅延を考慮してレベルシフタに入力する必要がある。その具体例を示す。

15 図8(A)に、シフトレジスタの出力パルスからの遅延を考慮したレベルシフタの制御信号①、②、③及び④を生成する回路の例を示す。図8(B)には、そのタイミングチャートを示す。

第N段のレベルシフタの制御信号の生成について説明する。まず、第N-2段のD-FFの出力Q(N-2 Q)と第N-1段のD-FFの出力Q(N-1 Q)をNOR8001に入力し、NOR8001の出力を信号③とする。第N-2段のD-FFの出力Q(N-2 Q)がHレベルになると、信号③はLレベルとなる。次に、第N-2段のD-FFの出力Q(N-2 Q)と、第N-1段のD-FFの出力Q(N-1 Q)を第1のインバータ8002で反転したものをNAND8003に入力し、NAND8003の出力を第2のインバータ8004で反転させ、信号①

20

を生成する。信号③と比較して、信号①の方が、第2のインバータ8004分遅延が多いため、信号③がLレベルに向かってから、信号①はHレベルに向かう。さらに、第2のインバータ8004に直列に複数のインバータを付加すると信号③のHレベルと信号①のHレベルが重なるタイミングが全くなくなり、貫通電流をなくすることができる。

- 5     また、直列に接続された第1のP型TFT8005、第2のP型TFT8006及びN型TFT8007の内、第2のP型TFT8006及びN型TFT8007のゲート電極に、第N-1段のD-FFの出力Qの反転パルスを入力し、第1のP型TFT8005のゲート電極に信号①を入力する。第1のP型TFT8005のソース電極はVDDに接続され、N型TFT8007のソース電極はGNDに接続され、第2のP型TFT8006及びN型TFT8007のドレイン電
- 10    極は接続され、第3のインバータ8008、第4のインバータ8009、第5のインバータ8010、第6のインバータ8011、第7のインバータ8012が直列に接続されている。

- 第1のP型TFT8005のゲート電極に信号①が入力されているため、信号①がLレベルになってから、第3のインバータ8008の入力部がHレベルになる。さらに、第4のインバータ8009により反転させ、信号②を生成する。これにより、リセット期間とCK取り込み
- 15    期間が重ならないようにする。

さらに、信号②を第5のインバータ8010、第6のインバータ8011及び第7のインバータ8012を介し、信号④を生成する。これにより、CK取り込み期間が始まってから、出力インバータがVDD出力可能となる。

- 本実施例では、図8(A)の構成を説明したが、この構成に限定されないことは言うま
- 20    でもない。各制御信号の遅延時間、周波数等を考慮して、適宜構成すれば良い。

#### [実施例4]

本発明の表示装置は様々な電子機器の表示部に用いることができる。特に低消費

電力が要求されるモバイル機器には本発明の表示装置を用いることが望ましい。

具体的に前記電子機器として、携帯情報端末(携帯電話、モバイルコンピュータ、携帯型ゲーム機または電子書籍等)、ビデオカメラ、デジタルカメラ、ゴーグル型ディスプレイ、表示ディスプレイ、ナビゲーションシステム等が挙げられる。これら電子機器の具体例

5 を図9に示す。

図9(A)は表示ディスプレイであり、筐体9001、音声出力部9002、表示部9003等を含む。本発明の表示装置は表示部9003に用いることができる。表示装置は、パソコン用、TV放送受信用、広告表示用など全ての情報表示装置が含まれる。

図9(B)はモバイルコンピュータであり、本体9101、スタイラス9102、表示部9103、  
10 操作ボタン9104、外部インターフェイス9105等を含む。本発明の表示装置は表示部9103に用いることができる。

図9(C)はゲーム機であり、本体9201、表示部9202、操作ボタン9203等を含む。本発明の表示装置は表示部9202に用いることができる。

図9(D)は携帯電話であり、本体9301、音声出力部9302、音声入力部9303、表示  
15 部9304、操作スイッチ9305、アンテナ9306等を含む。本発明の表示装置は表示部9304に用いることができる。

以上のように、本発明の表示装置の適用範囲は極めて広く、あらゆる分野の電子機器に用いることが可能である。

## 20 産業上の利用可能性

本発明は、ポリシリコン TFT 等の特性ばらつきの大きなトランジスタを用いて、電源電圧より小さい振幅の CK 信号でシフトレジスタを動作させる場合に大変有効である。本発明のシフトレジスタを用いることで、特性ばらつきの影響は殆ど無視できる。また、CK信



号のレベルシフタは、シフトレジスタで発生するパルスを用いて制御し、CK信号の増幅が必要な短期間だけ動作させるため、貫通電流が流れる期間が短く、低消費電力のシフトレジスタを提供することができる。

## 請求の範囲

1. クロック信号の振幅を増幅するレベルシフタを有するシフトレジスタであって、  
前記レベルシフタは、容量手段と、  
前記容量手段の第1の電極に入力部が接続されたインバータと、  
5 前記インバータの入力部と出力部を電氣的に接続する手段と、  
前記容量手段の第2の電極に基準電位を入力する第1の手段と、  
前記容量手段の第2の電極に前記クロック信号を入力する第2の手段と、  
前記レベルシフタの出力の電位を固定する第3の手段と、  
前記レベルシフタが動作していない期間において、前記インバータの入力部の電位を  
10 固定する第4の手段と、を有し、  
前記レベルシフタの制御信号は前記シフトレジスタの出力パルスから生成することを特徴とするシフトレジスタ。
2. 請求の範囲第1項において、  
15 前記基準電位に前記クロック信号のHレベルとLレベルの電位を用いることを特徴とするシフトレジスタ。
3. クロック信号の振幅を増幅するレベルシフタを有するシフトレジスタであって、  
前記レベルシフタは、容量手段と、  
20 前記容量手段の第1の電極に入力部が接続された第1のインバータと、  
前記第1のインバータの出力部に入力部が接続された第2のインバータと、  
前記第1のインバータの入力部と出力部の間に設けられた第1のスイッチと、  
前記第1のインバータの入力部と電源との間に設けられた第2のスイッチと、

- 前記容量手段の第2の電極に基準電位を入力する第1の手段と、
- 前記容量手段の第2の電極に前記クロック信号を入力する第2の手段と、を有し、
- 前記第2のインバータは、前記第1のインバータの出力が不定の期間において、前記レベルシフタの出力の電位を固定する第3のスイッチを有し、
- 5 前記レベルシフタの制御信号は前記シフトレジスタの出力パルスから生成することを特徴とするシフトレジスタ。
4. クロック信号の振幅を増幅するレベルシフタを有するシフトレジスタであって、
- 前記レベルシフタは、直列に接続された第1のインバータ及び第2のインバータと、
- 10 前記第1のインバータの入力部と出力部の間に設けられた第1のスイッチと、
- 前記第1のインバータの入力部と電源との間に設けられた第2のスイッチと、
- 前記第1のインバータの入力部に第1の電極が接続された第1の容量手段及び第2の容量手段と、
- 前記第1の容量手段の第2の電極に基準電位として前記クロック信号のHレベルを入力
- 15 する第3のスイッチと、
- 前記第2の容量手段の第2の電極に基準電位として前記クロック信号のLレベルを入力する第4のスイッチと、
- 前記第1の容量手段及び第2の容量手段の第2の電極に前記クロック信号を入力する手段と、を有し、
- 20 前記第2のインバータは、前記第1のインバータの出力が不定の期間において、前記レベルシフタの出力の電位を固定する第5のスイッチを有し、
- 前記レベルシフタの制御信号は前記シフトレジスタの出力パルスから生成することを特

徴とするシフトレジスタ。

5. クロック信号の振幅を増幅するレベルシフタを有するシフトレジスタであって、  
 前記レベルシフタは、直列に接続された第1のインバータ及び第2のインバータと、
- 5 前記第1のインバータの入力部と出力部の間に設けられた第1のスイッチと、  
 前記第1のインバータの入力部と電源との間に設けられた第2のスイッチと、  
 前記第1のインバータの入力部に第1の電極が接続された第1の容量手段及び第2の容量手段と、  
 前記第1の容量手段の第2の電極に出力部が接続された第3のインバータと、
- 10 前記第3のインバータの入力部と出力部の間に設けられた第3のスイッチと、  
 前記第3のインバータの入力部と電源との間に設けられた第4のスイッチと、  
 前記第3のインバータの入力部に第1の電極が接続された第3の容量手段と、  
 前記第3の容量手段の第2の電極に前記クロック信号のHレベルの電位を入力する第5のスイッチと、
- 15 前記第2の容量手段の第2の電極に出力部が接続された第4のインバータと、  
 前記第4のインバータの入力部と出力部の間に設けられた第6のスイッチと、  
 前記第4のインバータの入力部と電源との間に設けられた第7のスイッチと、  
 前記第4のインバータの入力部に第1の電極が接続された第4の容量手段と、  
 前記第4の容量手段の第2の電極に前記クロック信号のLレベルの電位を入力する第8
- 20 のスイッチと、  
 前記第3の容量手段及び第4の容量手段の第2の電極に前記クロック信号を入力する手段と、を有し、  
 前記第2のインバータは、前記第1のインバータの出力が不定の期間において、前記レ

ベルシフタの出力の電位を固定する第9のスイッチを有し、

前記レベルシフタの制御信号は前記シフトレジスタの出力パルスから生成することを特徴とするシフトレジスタ。

- 5 6. 請求項1乃至請求項5のいずれか一項において、

前記シフトレジスタを構成する前記レベルシフタの段数とフリップフロップの段数の比は、 $1:N$  ( $N$ は2以上)であることを特徴とするシフトレジスタ。

7. クロック信号の振幅を増幅するレベルシフタを有し、

- 10 前記レベルシフタは、容量手段と、

前記容量手段の第1の電極に入力部が接続されたインバータと、

前記インバータの入力部と出力部の間に設けられたスイッチと、

前記容量手段の第2の電極に基準電位を入力する第1の手段と、

前記容量手段の第2の電極にクロックを入力する第2の手段と、

- 15 前記レベルシフタの出力の電位を固定する第3の手段と、

前記インバータの入力部の電位を固定する第4の手段と、を有するシフトレジスタの駆動方法であって、

リセット期間において、前記スイッチをオンして、前記インバータの入力部及び出力部を前記インバータの閾値電位とすることによって、前記容量手段の第1の電極が前記閾値

- 20 電位とし、前記第1の手段によって前記容量手段の第2の電極を基準電位とし、

クロック取り込み期間において、前記第2の手段によって前記容量手段の第2の電極に前記クロック信号を入力し、前記基準電位からの電位の変動により、前記第3の手段によってHレベルまたはLレベルを入力された前記クロック信号に対応して出力し、

前記インバータの出力が不定の期間において、前記第3の手段によって、前記レベルシフタの出力の電位を固定し、

前記レベルシフタが動作していない期間において、前記第4の手段によって、前記インバータの入力部の電位を固定し、

- 5 前記レベルシフタの制御信号は前記シフトレジスタの出力パルスから生成することを特徴とするシフトレジスタの駆動方法。

8. 請求の範囲第7項において、前記基準電位に前記クロック信号のHレベルとLレベルの電位を用いることを特徴とするシフトレジスタの駆動方法。

## 要約書

トランジスタの特性ばらつきの影響を殆ど受けずに、低電圧でCK信号を入力する低消費電力のシフトレジスタを提供するために、本発明は、インバータの入力部を前記インバータの閾値電位にし、前記インバータの入力部に容量手段を介してCK信号を入力することで、CK信号は増幅され、その増幅されたCKをシフトレジスタに用いる。つまり、インバータの閾値電位を取得することで、トランジスタの特性ばらつきに殆ど影響しないシフトレジスタを提供することができる。

また、CK信号のレベルシフタは、シフトレジスタの出力パルスを用いて生成するので、CK信号のレベルシフタは貫通電流が流れる期間が短く、低消費電力のシフトレジスタを提供することができる。